

エシカルワカル?

エシカルとは…

『人や社会、地域、環境などにやさしいものを購入・利用する消費行動やライフスタイル』のこと。ここでは学生のエシカルな活動を紹介します!

『パスレル』は食品ロス削減を目標としフードドライブや子ども食堂などの活動をしています。今回の自販機の設置は、セカンドハーベスト名古屋さんとコカ・コーラさんからお声掛けいただきました。この自販機は、売り上げの一部がフードバンクの運用費用に充てられます。活動を通して食を必要としている人々に目を向けるきっかけとなってほしいです。

ビジネス学部3年 村松優

『ユニこまPlus+』では、「ユニバーサルデザインで困っている人にPlusを」を意味する団体名のもと、障がいがある方の洋服リメイクを行っています。障がいによる着脱の困難などに関わらず好きな服を着られるよう、当事者さんと衣料品店、リメイク専門店であるママのリフォームさんなどの企業を繋ぐ役割を担っています。服を自由に選べない方がいる現状、リメイクでその現状を変えられることを多くの人を知るきっかけになるように活動しています。

福祉貢献学部3年 松浦実咲

『久遠チョコレート』は、障がいをもつ方やママさんなど多様な方々によって造られています。チョコレートは、製造中に割れてしまっても溶かして作り直し、販売できます。学生スタッフで商品を買うことがエシカル消費であることを伝え、販売をおこないました。私はこの活動で就労支援について初めて知ったので、商品を実際に買い、広めていきたいです。

健康医療科学部4年 神谷結衣

『そとそと』は、愛知県豊田市の魅力発信を行っています。活動では豊田市でジビエという鹿や猪による農作物被害が大きな問題となっていること、捕獲された9割以上が廃棄されていることを知りました。そこで今年度からは鹿肉や猪肉の利用を促進する活動を始め、現在は地域の方と共同でジビエ弁当の開発や鹿革を利用したワークショップの企画を行っています。今後も「獣害」とされてきたジビエを有効活用する方法を考えていきたいです。

交流文化学部2年 近藤南帆



『エコのつぼみ』は、竹が生態系に悪影響を与える存在としてではなく、竹を有効な資源として活用していくことを目的としています。主な活動として竹林整備とそこで間伐した竹を活用したワークショップの開催があります。竹は燃やして竹炭にすることで肥料や消臭、除湿などの効果を持ちます。子どもから大人まで環境問題を身近にとらえてもらい、未来の環境のためになる活動が長く続けられるよう取り組んでいきたいです。

交流文化学部3年 橋本菜里



『まざって長久手フェスタ』では、食品プレートを再利用し、おしゃれな小物に変えるという活動をしました。このイベントでは食品プレートが6種類あり、それぞれ生まれ変わりやすいものが違うということを知りました。リサイクルする際にこれらを分別すると、無駄なくリサイクルできることを学びました。ボランティアに参加することで自分の学びにもつながるので、より多くの活動に今後も参加したいです。

人間情報学部1年 藤田歩美

“本誌を折ってくださった方々” 私たちは、就労準備に力を入れている放課後等デイサービスのYくまーず未来春日井nextです。子どもたちに「働くこと」の実験的な体験をもらうために、チラシ折りをお手伝いさせていただきました。楽しい、ワクワクする気持ちから「好きなこと」を見つけ、強みにしていく支援を目指しています。



コラボ通信

本誌は、愛知淑徳大学
CCCの学生スタッフが
制作しました。
ぜひご覧ください！

CCC(コミュニティ・コラボレーション・センター)とは・・・

学生が学外で生きた学びを得られるように支援する教育機関です。地域、社会、世界の人々と出会い、協働することで、大学で学んだ知識を活かしたものにしていけるようサポートしています。これまでに、多くの学生がCCCを通して地域に飛び出し、NPOや市民団体、企業などと連携して共に活動しています。

ぜひ、CCCに1度足を運んでみてください☆



-- コミュカフェ --



-- サイクルdeエシカル --



-- 伝えたい、SDGs大学生のチカラ --

先輩たちの声

- ① CCCへ来たきっかけ
- ② ボランティア活動で感じた思い
- ③ 下級生に一言

① 新入生歓迎会で、なごやであそび隊を知りミーティングに参加したい！と思いcccに行きました。② なごやであそび隊は、震災支援を目的に活動をおこなっています。その中で、東日本大震災の当時の様子についてお話を聞く機会があり、改めて日々の生活の尊さに気づかされました。今後も感謝の気持ちを忘れずに1日1日を大切に過ごしたいと思います。③ 新しいことに挑戦したいけど、何をすればいいかわからない。という方は是非cccに来てください。cccには、幅広いボランティアが沢山あります。自分に合ったボランティアを見つけに来てください。

ビジネス学部4年 仲嶋里帆



① 私は、1年生の京都合宿の時にチームわんわんに出会いました。cccに訪れたきっかけは、わんわんのミーティングがあったからです。cccに初めて行った時、部屋中にエナジーが満ち溢れていて、これから色々な経験ができるんだ！とワクワクしたのを今でも覚えています。② 活動を通して、小さな行動が少しずつ成果に繋がることを実感しました。この団体は、介助犬という手や足に障害がある方の日常生活をサポートする犬の啓発活動をしています。介助犬は現在、全国に53頭しかいないので知っている方は少ないですが、イベント参加者の中には「介助犬知ってるよ！」と言ってくれる参加者も増えてきました。これは、チームわんわんが、先輩方の代から活動し続け、その思いを受け継ぎ、活動し続けているからこそ見た成果だと感じます。③ cccは、自ら考え、行動できるチャンスを提供してくれる場所です。多くの人と出会う機会があり、その色々な考え方を学べます。成長できる場所なので、ぜひ一度cccに行ってみてください！

交流文化学部4年 柴田結衣



① ボランティア活動をすることで知識を増やし、経験値を上げたいと思ったからです！② 経験をしてみたいと分からないこともたくさんあるので、まずはやってみることが大切だと思います！③ cccってどんなところなんだろう？と、なかなか入る勇気がない方もいらっしゃると思いますが、ボランティアやってみたいと思う方は勿論、ちょっと気になるという方もぜひ来ていただきたいです！一緒にボランティア活動してみませんか？

社会貢献学部2年 山下珠玲



① cccがどんな場所であるかは知らず、新しいことに挑戦したい・友達欲という想いだけで来ました。② ボランティアといっても、一括りではなく、多くのジャンルがあるので、活動内容によって感じる思いは異なります。ただ、どんなボランティアにしろ、人から感謝されることで、初めて達成感・やりがいを感じることは共通していると思います。③ ボランティアをやることで、小さな学びでも必ず得るものはあります！まずは、なんとなくやってみるの気持ちで、興味のあるジャンルから始めてみて下さい！

交流文化学部4年 岩井祐斗



① 「面白いことやってるよ！」と友人に誘われてcccに訪れたのがきっかけです。ボランティアというものに全く縁の無い高校生だったので、始めは何もかもが新鮮でした。② ボランティアを通して学んだことは、目先の利益ばかりを追求しても、望んだ結果は得られないことです。数字ばかりに気を取られていると気づけないことがあります。それにいち早く気づき、長期的な視点で物事を考えることが大切だと思いました。③ 4年間という限られた時間のなかで、何が自分にとって最善となるか。後悔しないために、常に考え続ける習慣をぜひ付けて下さい！

交流文化学部4年 阿部凜寧



① 僕の友達がcccの企画で「無料で温泉が入れる」「下呂市を観光できる！」という話を大学1年の頃に聞いて面白そうだと思い、参加したのがきっかけです。② 今まで、SNSを使った小坂町のPRや企業様との共同イベント・企画を繰り返し、えごま油の販売の仕方まで考えました。その結果、4年間で多くの方に支えられながらも学生らしさを忘れず、小坂町に恩返しできたと思います。③ どんなボランティアを行う上でも、「やりきる力」を持ってほしいです！応援しています！

交流文化学部4年 豊田翔理

